



『 心房細動について 』

高齢化に伴い増加している心臓病に「心房細動」があります。

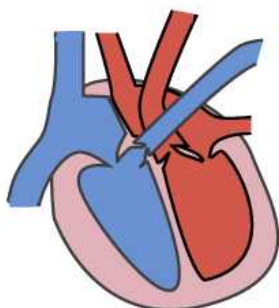
直接生命を脅かすことはありませんが、心機能の低下や重度の脳梗塞の原因となることがあるため非常に重要な不整脈です。

80歳以上の男性で23人に一人、女性で25人に一人はすでに心房細動になっており、2020年には総患者数は100万人まで増加すると予想されています。

治療は「抗凝固療法」いわゆる「血液サラサラ」が中心ですが、以前はワーファリンという薬剤しかなかったため、薬が合わず、治療できない方も多くいました。また、薬剤の作用上、食べ合わせ飲み合わせにも配慮が必要でした。最近新しい薬が開発され、治療できる方の範囲も広がっています。

心房細動による脳梗塞は、命が助かってもしばしば大きな後遺症を残します。また、心房細動は自覚症状がないことが多く、3人に一人は無症状です。そのため脳梗塞になってから心房細動に気がつく方も多くみられます。

予防するためには早期発見・早期治療が重要ですので、健診や人間ドックなどで定期的にチェックすることを心がけてください。



鹿児島厚生連病院
循環器内科 医長
早川 裕